

第4回いじめを考える児童生徒委員会の結果について

教育指導課

堀川公民館にて、市PTA連絡協議会や育む懇談会の協力で開催された第4回委員会は、児童生徒の委員のほか、教育委員、教職員、保護者、地域の方々にも多数参加いただき、いじめ根絶に向けた各校の協議や発表を行いました。

すべてのスケジュールを順調に進めることができ、本委員会が無事に終了したことを報告します。

1 日 時 令和元年11月10日(日)

(1) 協議及び準備 午前9時30分～午前11時45分

(2) 委員会 午後1時～午後4時15分

2 参加者(合計154名)

(1) 児童生徒委員 44名

(2) 教職員(校長含む) 48名

(3) 保護者 41名

(4) 地域(自治会、育む懇談会) 2名

(5) 教育委員 1名

(6) 教育部長 1名

(7) 市P連 5名

(8) 教育指導課 9名

(9) 教育研究所 3名

3 内 容

(1) 児童生徒委員によるふれあいタイム

第1回から引き続き実施している「ふれあいタイム」を設け、今回は南中学校と東中学校の委員のほか、立候補した大根小学校、東小学校の委員が西中学校の委員と協力してアクティビティを行い、笑顔あふれる温かい雰囲気のもと会が始まりました。

(2) 今年度のいじめを考える児童生徒委員会の活動報告

本委員会の委員長より今年度のいじめを考える児童生徒委員会の活動報告を行い、また、昨年度からの取組である「いじめを生まない学級・学年・学校風土創りを目指すために何が必要なのか」について協議を続けてきました。その結果、「はだのっ子生活スタンダード」は以下のように決定したことを報告しました。



協議の様子



教育部長あいさつ



市P連会長あいさつ

「“わ”を広げる五つの柱」～はだのっ子生活スタンダード～

- ・自己実現「自信をもってやってみよう！～自分の個性を大切に～」
- ・生活習慣「笑顔で暮らせる生活リズムを整える！」
- ・学び「考えて疑問をもとう、チャレンジする心をもとう」
- ・仲間「思いやり、みんなと一緒に認め合おう」
- ・社会「人とのちがいを受け入れ合い、自分の気持ちを伝え合おう」

(3) 各校におけるいじめ根絶運動の取組の発表

市内全小中学校22校のうち、北小学校、大根中学校、渋沢中学校の3校は、パワーポイントやロイロノートを使用した全体発表を行いました。また、3校以外の小中学校19校は、ポスターを用いたポスターセッションによる発表と意見交換を行いました。

(4) 中学校区別協議及び発表

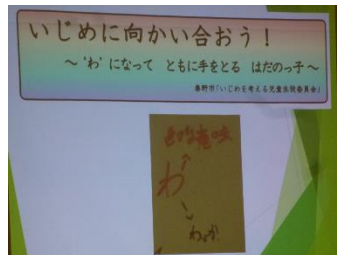
「各学校のいじめ根絶運動の活動を通して、いじめを未然に防ぐために何が大切か。何ができるか。」をテーマに、いじめを生まない学級・学年・学校風土創りを目指した活動がよりよいものになるように、地域や保護者及び先生方の意見も加えて協議を行いました。

(5) 本委員会の委員長と副委員長による作文発表

本委員会での一年間の活動を通して、学んだことや感じたことを踏まえて、「いじめのない世の中を目指して」について、作文による発表を行いました。



ふれあいタイム



今年度の本委員会の活動報告



ロイロノートでの発表



ポスターセッション



中学校区別協議



委員長、副委員長による作文発表

秦野市「いじめを考える児童生徒委員会」

委員長と副委員長による作文発表

本委員会での一年間の活動を通して、学んだことや感じたことを踏まえて、「いじめのない世の中を目指して」について、作文による発表を閉会式にて行いました。その内容をご紹介します。

委員長（秦野市立北中学校3年）

実は、いじめを無くす取り組みには、終わりが来ないと思っています。人が大勢集まれば、多少のすれ違いは必ず生まれてしまうからです。ですが、私たちがいじめを減らし、大多数の人がいじめに苦しまなくする環境をつくることはできます。そこで、今日はいじめを減らすこと、いじめを生まない環境をどうすればつくることができるのか、私の考えたことを伝えたいと思います。

まず私は、いじめがどうして生まれてしまうのかを考えました。いじめを生まない、というのはいじめの原因を断つことだからです。いじめのメカニズムには、いじめる側の環境が関係しているようです。ある調査によると、いじめる側には、学校生活におけるストレスがかかっているそうです。ストレスは「勉強」、「教師」、「友人」、「家族」の4つから受けているそうです。調査の内容について、ある記事では、「勉強」という観点からは、「成績が悪かったから」、「教師」という観点からは、「先生がひいきしていると思ったから」、「友人」という観点からは、「悪口を言われたから」、「家族」という観点からは、「成績のことをうるさく言われたから」、などといったことから学校生活のストレスを溜めてしまい、いじめをしてしまうのだと考察されます。

他にも要因が無いか調べました。私は、他に調べたことから違いを受け入れられないことに大きな要因があると考えました。人はみんな違って、誰一人として、価値観、人種、年齢、職業、体型が全く同じ人はいません。当たり前のことですね。しかし、時に人は自分と違うものを持っている人に対してマイナスの感情をもってしまうことがあります。例えば、自分がどれだけ勉強しても追いつけないクラスメイトがいたら、あなたはどう感じますか？嫉妬、自分への苛立ち…なんて事を感じるかもしれないですね。それはストレスになります。しかしそう感じることは悪いことではありません。そこからあなたがどんな行動をしたかによって、あなたはいじめの加害者になってしまうかもしれない、ということです。いじめの原因は、ストレスのかかる環境、そのストレスの発散の仕方にあるようです。

いじめのメカニズムから、いじめを生まない環境が具体的にどんなものか見えてきました。すばり、ストレスを溜めない環境です。それには私は今から言う3つのことがあればいいと思います。1つ目に、あなたを理解してくれる友人がいる事。先ほど話した学校のストレスは友達と共有してスッキリしましょう。同じ学校や同じ年齢、同じ国の友達じゃなくても全然オーケーです。学校の成績は関係ありません。

ありのままのあなたを受け止めてくれる人なら、誰でもいいんです。友達を作るのは難しくないと思います。会ったときに必ず挨拶と何か一言言えば、いつの間にか友達になっているかもしれません。2つ目にグループに悪口や悪ふざけが無い事。あなたの周りに人の悪口ばかり言う人が居たら、気持ちがよくないですね。悪ふざけはいじめに発展することもあると思います。私は良いところを探して友達と共有できるグループになるといいと思います。3つ目にダメと言える事。いじめを見かけた時にいじめはダメだよ！と言えることは、いじめを許さないという態度や空気を作れます。いじめを発見して大人に相談することも、いじめを許さない！ダメと伝える手段ではないでしょうか。

この3つは、どれも小さなことです。この小さなことができるだけで、いじめを生まないようにできるなら、やらない手はないでしょう。

今までお話をしてきたことは、あくまで私個人の考えです。なので、もしあなたが違う考えを持っているのなら、ぜひ聞かせてほしいです。様々な人に意見を聞いて、一緒にいじめに苦しめない世の中をつくりましょう。

最後に私が大好きな言葉を2つ紹介させてください。「十人十色」と「笑顔」です。ご清聴ありがとうございました。

副委員長（秦野市立広畑小学校6年）

私がこの「いじめを考える児童生徒委員会」に参加してよかったことは、自分が思っているいじめについての意見をいうことができたことと、いじめはなぜいけないかという他の人のいろいろな意見を聞くことができたことです。いじめはよくないことだ、とみんな思っているけれど、なぜよくないかという理由がいろいろあって、私の考えが広がっていくのを感じました。私とは違う意見の人もいたり、一緒の意見の人もいたりして、そのたびに驚きましたが、みんな、「いじめは絶対にしてはいけない！」という思いは一緒で、よかったと思います。そして、とてもうれしく、心強く思いました。

次に、一番印象に残っていることを話します。私は、スローガンを決めるときの話し合いが一番印象に残っています。たくさんの時間を使い、話し合ったことで、とてもよいものが出来上がりました。ホワイトボードに、仲間みんなが言ってくれた意見を書いていくのは大変でしたが、だんだん楽しくなってきました。たくさんの意見が出て、とてもうれしくなったのを覚えています。自分の意見も言うことができ、よかったと思います。とても深い話し合いができ、いろんな人がわかるようなスローガンができて、本当によかったなと思いました。

ちなみに、完成したスローガンを広畑小学校の児童朝会で発表した時、クラスの仲間は「向かい合おう」や「わになって」という言葉をすぐに覚えてくれました。

はじめは、副委員長に立候補しようかどうかすごく迷いましたが、勇気をもって立候補し、副委員長になることができ良かったと思います。たくさんの人の前で話すのはとても緊張しましたが、とてもよい経験ができたと思います。

いじめを考える児童生徒委員会は今日で終わりますが、私はこれからも、いじめについて考えることを忘れないでいたいと思います。

自分的にも、秦野市内のたくさんの仲間みなさんとふれあうことができ、たくさんの意見や考えを知ることができて、この委員会に参加できてよかったと思います。

みなさん、本当にありがとうございました。